

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>・教育課程において生徒の意欲や探究心を高める編成を組織的に取り組む。</p> <p>・年間行事計画において学校行事や生徒会活動等を充実させ生徒の主体的な活動の促進を図る。</p>	<p>・幅広い興味・関心に対応できる教育課程の編成と個性に応じたきめ細かい学習支援の体制づくりを進める。</p> <p>・放課後・長期休業中などを利用した日常的な学習指導や長期休業中の補習・講習の体制を整備する。</p> <p>・授業マナーの指導を通して生徒の学習意欲の向上・学習態度の改善を図るとともに、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育む取り組みを充実させる。</p> <p>・校外機関や中・学校との協力を得て、生徒・教員双方の授業実践を行う。</p>	<p>①学校及び各教科で定めた「育てたい生徒像」を反映した教育課程に基づいた学習支援を着実に行う。</p> <p>②放課後・長期休業中などを利用して、講習・補習の充実を図り、学力の定着を図る。</p> <p>③生徒に身に付けさせた力を明確にした、全科目統一書式に基づく年間学習指導計画を作成する。</p> <p>④「思考力を伸ばすための授業実践集」・「逆さま歴史教育」に基づいた授業づくりを行い、学習成果発表会を設定する。</p> <p>⑤知識技能を身につけさせたい授業においても、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れる。</p>	<p>①「育てたい生徒像」に生徒が近づき、また生徒のニーズや進路希望に沿った学習支援ができたか。</p> <p>②長期休業中の講習・補習の講座数や参加生徒数が増えたか。</p> <p>③生徒に身に付けさせた力を明確にした単元指導計画や年間学習指導計画を作成できたか。</p> <p>④基礎的な知識技能の定着とともに思考力・判断力・表現力が高まっているか。</p> <p>⑤生徒による授業評価の項目における「かなり当てはまる」の回答率が増えたか。</p>	<p>①今年度の2年生着から基礎学力自由選択幅を狭めたカリキュラムに変更しており、進路実現に沿った選択科目の設定で適切な指導ができた。</p> <p>②日常的な生徒のニーズに対応した個別指導ができるように「ノー会議デー」を設定した。長期休業中や増進希望講習については、例年通りの講座を開講したが、夏休みは部活動等普段できない活動をメインに考えている生徒が多く、参加生徒数は微減した。</p> <p>③④「思考力を持った生徒」を「育てたい生徒像」として「逆さま歴史教育」に基づいた指導が地歴科を中心に浸透してきた。</p> <p>⑤確実に増加傾向にある。</p>	<p>①「教科」と「生徒」の浸透が定まらなかつたが、この浸透を促すために、各教科の授業に「育てたい生徒像」の言葉やキーワードを盛り込み、授業の進め方や指導の工夫を工夫する。</p> <p>②「育てたい生徒像」に近づき、また生徒のニーズや進路希望に沿った学習支援ができたか。</p> <p>③生徒に身に付けさせた力を明確にした単元指導計画や年間学習指導計画を作成できたか。</p> <p>④基礎的な知識技能の定着とともに思考力・判断力・表現力が高まっているか。</p> <p>⑤生徒による授業評価の項目における「かなり当てはまる」の回答率が増えたか。</p>	<p>(保護者)</p> <p>・講習補習について、希望する生徒にも必要であるが、普段の授業への対応も望む。(学校評議員)</p> <p>・県の指定である「逆さま歴史教育」への取り組みの成果を全校生徒にも報告すべきではないか。</p> <p>・夏期講習の参加人数が伸びていないのが気になる。周知方法をもっと工夫すべきだ。</p>	<p>・アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善に取り組むことができた。「逆さま歴史教育」研究指定としての地歴科だけではなく、さらに全教科へのこの視点からのアプローチをいかに推進していくかが課題である。</p> <p>・夏季休業中の講習の参加生徒数を増やすために講習の内容、あり方、生徒への周知の方法についての検討が必要である。</p>	<p>・研究授業を授業担当者だけの研究にせず、学校全体で共有し、実践できる具体的な計画を立てる。</p> <p>・教育課程については、将来を見据え、本校の生徒の実態に即した方向で改善する。</p> <p>・夏期講習については、講座内容の案内をより具体的に、参加意欲が高まる周知方法をとる。</p> <p>・部活動等との事前調整を行い、講習期間を確保し、教員の指導体制も整え、生徒が参加し易い環境を創る。</p> <p>・年度当初に相互授業参観、公開授業、研究会といった授業改善への取り組みを強化するよう各教科に依頼する。</p>
2 生徒指導・支援	<p>・一人ひとりの生徒が規範意識を持ち、地域に信頼される学校づくりをめざす。</p> <p>・生徒一人ひとりの個性に応じた支援体制の充実を図る。</p>	<p>(1)様々な場面で地域社会の一員としての規範意識を育む。</p> <p>(2)校内の教育相談体制を充実させるとともに、外部機関との連携を図り個性に応じた支援体制を整備する。</p>	<p>(1)①「挨拶」「アイコンタクト」「リスペクト」を推進する。</p> <p>②服装・頭髪・遅刻・授業規律について、年間を通して担任、学年、グループと段階を追って指導を行う。</p> <p>③日常的に駐輪指導、校内巡回指導を行う。</p> <p>④定期的に自転車点検、自転車乗車マナー指導、登下校指導を行う。</p> <p>(2)①養護教諭とスクールカウンセラー・教育相談コーディネーターを中心とした教育相談体制を整備する。</p>	<p>(1)①～④の取り組みにより、地域社会の一員としての規範意識を育むことができたか(指導件数、近隣住民からの苦情件数、担当教員による評価)。</p> <p>(2)①の取り組みにより、校内教育相談体制の整備が進んだか(担当教員による評価)。</p>	<p>・一昨年2月に服装・頭髪について再登校指導を導入したことにより、違反者の数は激減した。</p> <p>・『3UP運動(授業中居眠りの撲滅キャンペーン)』を開始した。</p> <p>・定期的に登下校指導を実施したが、目の届かない所で二人乗りや並列運転があると思われる。近隣住民からの苦情は減少したが、注意されたときの態度の悪さを指摘された件があった。</p>	<p>・一昨年度から導入した「逆さま歴史教育」の浸透が定まらなかつたが、この浸透を促すために、各教科の授業に「育てたい生徒像」の言葉やキーワードを盛り込み、授業の進め方や指導の工夫を工夫する。</p> <p>・生徒情報を共有し、確かながら、必要に応じて速やかに対応できる体制を整備する。</p> <p>・生徒情報を共有し、確かながら、必要に応じて速やかに対応できる体制を整備する。</p>	<p>(保護者)</p> <p>・自転車乗車マナーについて、いっそうの指導を期待したい。(学校評議員)</p> <p>・校内で出会う生徒すべてが気持ちよく挨拶をしてくれる。服装頭髪も大変落ち着いていると思う。</p>	<p>・「挨拶」「アイコンタクト」「リスペクト」を標語に、規範意識の向上が図られた。</p> <p>・服装頭髪についての再登校指導で違反者の数が減った。</p> <p>・『3UP運動(授業中居眠りの撲滅キャンペーン)』の取り組みで授業規律の向上が見られる。</p> <p>・スケアードストリート交通安全教室を実施するなど、自転車乗車マナー指導を進めているが、さらに継続して啓発的指導を行う必要がある。</p>	<p>・生活支援グループと、各学年会との連絡を密にして、常に共同歩調を取れるようにする。</p> <p>・自転車乗車マナーの向上については、講義的で一方的な指導ではなく、生徒側からの発信も工夫したい。</p> <p>・ケース会議等、深刻なトラブルを抱える生徒を支援するための仕組みを見直し、生徒や学年などからの要請に素早く対応するよう努める。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価(3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の職業を細やかなキャリア教育を推進し、生徒の自己実現を支援する。</li> <li>一人ひとりの社会的、職業的自立を目指す、本校生徒の体系的なキャリア教育を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1年) 学習に意欲的に取り組む、基礎体力を身につけるとともに、興味・関心や適性を見据えた卒業後の進路を考える。</li> <li>(2年) 自分の興味・関心を持った事柄に積極的に挑戦し、将来を見据え、進路先を決め、方策を考える。</li> <li>(3年) 自分の課題を発見・克服し、自己実現を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1年) 進路講演会やガイダンスをとおして、自分が就きたい職業を考へ、それに至るまでに必要な学習方法を知り、進路の方向性を固める。</li> <li>(2年) オープンキャンパス参加や分野別進路ガイダンスをとおして、具体的に就きたい職業やそれを実現するために必要な進学先を決定する。</li> <li>(3年) 安易な方向に流されることなく、受験方法等を明確にして、第1希望の自己実現を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路意識が充実し、それに伴う行動ができるとともに、自己実現ができたか。(進路希望と実績の比較、オープンキャンパスや1日体験等への参加人数、ワークシート記述分析)</li> <li>自分の適性を知り、情報収集をとおして必要な知識の定着や能力の育成、将来の目標が明確になったか。(ワークシート・振り返りシート記述分析)</li> <li>受験に耐えられる基礎学力、基本的な学習習慣が定着したか。また、意欲的に発展的学習に取り組めたか。(講習や模試の参加人数等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年では、講演会等を通じ、進路意識が徐々に高まりつつある。</li> <li>2年では、オープンキャンパスに9割以上が参加し、報告書の内容も充実、目標が明確になりつつある。</li> <li>3年では、専門学校の入学者が増加、安易な方向に流されてしまう者が増加傾向にあるが、看護・保育等を中心に、自己実現を目指す者も多数いる。</li> <li>インターンシップ・1日看護体験受験者は微増、センター試験受験者3名減少した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演会等のワークシートの記述等は概ね好評であるが、進路状況の結果からはAOや推薦に流れてしまう生徒が多い。</li> <li>将来の職業が具体的にである進路(看護等)の者については、ある程度の学力や学習習慣の定着が見られるが、将来が未定の者について、基礎学力・学習習慣の定着をつけることが課題である。</li> <li>将来の具体的な職業まで見据えている者がよい成果を出している傾向があるので、講演会や面談等の機会を利用し、将来を意識させる工夫を実施していきたい。</li> </ul>	(保護者) <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後の進路について、今後もいろいろな情報を与えていただきたい。目標を達成するために何が必要であるかを指導していただきたい。(学校評議員)</li> <li>将来の具体的な職業を考えさせるという指導に成果が現れているように思う。更なる充実をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後の具体的な進路(行事)は非常に充実している。それがインターンシップ、一日看護体験、模擬試験への参加人数の上昇に結びついている。</li> <li>上級学校への進学先を分析すると、まだ「行きたい学校」より「行ける学校」に流れている傾向がうかがえる。積極的な進路選択を行えるような雰囲気や支援体制作りが急務である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身が進路先の調査をし、その進路を実現するための方法を計画する内容の取組みを検討する。</li> <li>各ガイダンスの事前、事後指導のあり方が担任ごとに異なっている。組織としてそれぞれのガイダンスの意義や目的を明確にして取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会との交流や校種間連携を深め、生徒の校外活動を推進する。</li> <li>地域が主催する行事に対して、本校生徒の部活動、委員会などでボランティア参加を促進し、授業おいて近隣の小中学校との交流を図る。</li> <li>学校からの情報発信を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校周辺の清掃等で、地域周辺の清掃活動や環境の保全に協力をする。</li> <li>地域・分教室と連携した学校行事(特に文化祭)に様々な分野での参加や協力を求め、地域行事への積極的な参加をする。</li> <li>授業や部活動において、近隣の小・中学校との交流を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回の地域清掃活動と上和田中学校との連携で実施する登校清掃活動を継続的に実施する。</li> <li>地域に伝わる伝統文化(凧あげ)の行事に本校生徒が参加し、文化祭でも凧の展示発表の場を設け、生徒や一般の方々と共同で作成する。</li> <li>学校外へのボランティアやインターンシップの参加を増やす。また、部活動レベルで福祉施設や近隣小中学校への訪問の機会も増やし、高校への招待なども検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と合同した清掃活動・環境保全活動が行うことができたか。(担当教員による評価)</li> <li>地域の行事に本校生徒が参加し、文化祭でも、生徒と一般の方々と地域交流をすることができたか。</li> <li>学校外へのボランティア、インターンシップの参加生徒が増え、地域への参加が大幅に高まったか。高校への招待などが盛んに行われたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回の地域清掃活動では、地域の方にも参加していただき、連携した活動ができた。</li> <li>登校清掃活動は毎回必ず拾ってくる生徒もいて継続性の面でも効果があった。</li> <li>宮久保凧揚げ同好会との交流(剣道部、書道部、生徒会、初任の文化の方)＜郷土文化＞である宮久保の凧あげ会に本校の生徒や職員が凧製作し、凧あげ会に参加し、交流を深めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校清掃活動では、自転車通学者には安全面から無理に拾わないようにしている。何かが限られる。今後自転車通学者への働きかけが課題である。</li> <li>本年度の本校のボランティア参加率は部活動レベルでは多いが、一般生徒の活動となる参加率は低い。福祉委員会などを通して呼びかけ運動で参加する生徒を増やしたい。</li> </ul>	(学校評議員) <ul style="list-style-type: none"> <li>正門前の空き地にある木々を伐採していたが、ありがたい。何かそこを利用する予定があるのか。</li> <li>宮久保凧揚げ同好会との交流について、年々活発に行っているように大変楽しみである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動、学校行事等の場において地域交流が積極的に行われているが、どのように取り組みを拡大していくかが課題である。</li> <li>地域文化交流同好会などの活動を活用して生徒の自発的な活動の場を広がっていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭や生徒活動報告誌『多羅樹』における授業成果の発表を増やし、その中で地域交流の要素を取り入れていく。</li> <li>地域文化交流同好会などの活動を活用して生徒の自発的な活動の場を広がっていく。</li> </ul>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の防災意識を高めるとともに防災体制の整備を進め、環境整備として、ごみの分別、清掃活動や緑化活動を推進する。</li> <li>行動規範の確立に努め不祥事を起こさない組織力を高める。</li> <li>職員の学校運営に対する積極性と使命感を高揚させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①職員研修において、DIG(図上訓練)を実施し、来年度の総合的な学習の時間やLHRで実施できるように準備する。</li> <li>②ゴミ箱等を含め清掃用具を計画的に刷新し、分別する意識を持つ環境整備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①職員研修におけるDIG(図上訓練)の実施と、来年度の年間計画への導入を検討する。</li> <li>②ゴミ箱の刷新と配置。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①職員研修を実施し、防災計画の刷新が行われたか。(担当教員による評価)</li> <li>②の取組により、生徒の美化意識・緑化意識が高まったか。(担当教員による評価)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)①DIG(図上訓練)の職員研修が済み、来年度の生徒実施に向けて準備ができた。</li> <li>②一部刷新し効果があった。</li> <li>③美化委員が水やりをする形が定着した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)①来年度初めて生徒向けに行うDIG実習がスムーズに運営できるかが課題である。</li> <li>②予算が限られる中で用意し、何年かかけて準備をしていかなければならない。</li> <li>③美化委員の仕事量が多くなり、別に緑化委員を新たに設置するかを検討していかなければならない。</li> </ul>	(保護者) <ul style="list-style-type: none"> <li>学校でどのような防災対策を行っているのか。承知しておくだけでも家庭では安心を得られる。今後お願いしたい。</li> <li>普段より清掃活動をしっかり行っているように、教室等が大変整理整頓されている。学習環境を整えるという意味で大変ありがたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災計画が整備され、全職員への周知効果的に行われた。DIG(図上訓練)の実施、ハザードマップの提出管理意識の高まりが感じられる。</li> <li>ごみの分別も進んでおり、校内緑化、花壇環境整備が向上している。</li> <li>本年度は体育館の耐震補強工事を行い、避難所として役割を兼ね、防災態勢を整える必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校に与えられたミッションを踏まえたために、職員一人ひとりが具体的な教育活動計画を自己目標として設定する。</li> <li>DIG(図上訓練)を生徒向けに実施し、さらに学校全体の防災意識を向上させる。</li> <li>発災時の対応を視野にと、校内組織の見直しと受け入れ態勢の構築を行い、指定避難所開設に係るシミュレーションを行う。</li> </ul>